高体連会報
青春の躍動
発行
島根県高等学校体育連盟
〒690-0842
松江市学園南一丁目2番1号
TEL・FAX(0852)26-3695
発行人◇山本篤治
編集◇高体連研究部
印刷◇㈲松本印刷

「島根の元気は高校生アスリートから」～平成二十五年度を振り返って～

島根県高等学校体育連盟
理事長　宮本善行

平成二十五年度も終わりを告げようとしています。今年度は高体連を取り巻く情勢が大きく変動した年となりました。

スポーツの指導現場における問題で揺れた年となりました。体罰問題は日本のトップアスリートによる告発など大きな社会問題となりました。四月二十五日には体育団体の関係者が一同に会して、「スポーツ界における暴力行為根絶に向けた集い」を開催し、「スポーツ界における暴力行為根絶宣言」を採択しました。県高体連としても講師を招いて指導法の研修会を実施しました。痛ましい事件を風化させることなく我々の心に留め、体罰根絶に向けた取り組みを継続していきます。

「全国高校総体」の開催に係わる財源問題では、二十六年度からカコーラが協賛を撤退することが決定されました。全国高体連では「総体経費削減」と「財務構造の転換による安定的運営確保」の二本柱でこの問題に取り組んでいます。

さて、競技成績を総括すると、北部九州総体では七競技十八種目が八位以内に入賞しました。九種目は三種目増えたものの、昨年より競技数では4競技減となっている結果でした。陸上競技種高跳びで大社高校三名が同時入賞するという快挙は賞賛に値しました。本年末には全国高校選抜大会で出雲高校男子弓道部が団体優勝して元気を与えてくれました。また、国際ユースサッカー大会日本高校選抜メンバーとして優勝した高橋壮也（立正大淞南三年生）、世界ユース陸上選手権でメドレーリレー三位となった青山聖佳（松江商業二年）、全日本高校選抜としてオタイ参加したバレーボールの杉原若葉（安来高校三年）二名が、日本代表として活躍したことも明るい話題でした。二〇二〇年東京オリンピックに是非島根から選手が出て欲しいものです。

事務局としては、今年度、「高体連表彰規程」の見直しを行い、学業との両立で三年間努力した生徒を卒業時に表彰する規程と、退職をむかえる専門部の先生方を推薦いただく表彰する規程を加えました。また、学校再編による地区高体連の合併も島根地区と大田地区を合併することで同意され、県央地区として一本化することも決定されています。

平成二十六年度に向けて「島根の元気は高校生アスリートから」の実現にむけて引き続きご支援をいただきますようお願い申し上げます。

栄える高校生出場！～全国高等学校選手権・選抜大会（結果）～

一枚岩になって

出雲高等学校　男子弓道部
主将　高瀬篤志

自分は、「今」というときに、出雲高校で弓道を出来る事は本当に感謝しています。それは弓道を通して多くの尊敬できる人に出会う事ができたからです。顧問の先生を始め、先輩方、部員はもちろん他校の選手などたくさんの人たちに出会いました。その出会いの場は弓道だけでなく、学業から笑って帰ることができませんでした。平成二十五年の県総体での出雲高校女子団体の優勝に勇気づけられました。その勢いに乗り、本国体では出雲高校男子から一人が出場し、第七位に入賞、そして全国選抜大会の県予選でも男子団体で優勝し、先生や先輩方の悲願である全国選抜大会に出場を十二年ぶりに決めました。

それからも遠征先の他県の学校や中国大会などで出会った方たちの応援をお掛けで、全国選抜大会でも優勝を飾る事ができました。この優勝を飾ることができたのも、顧問の先生との出会いがあったからこそ、今の自分があります。全国選抜大会の会場練習では的中は通り的射ができず、不安を抱えたまま選当日を迎えました。その時の選手仲間の先生に「信じてるよ」と言われ、何とか予選を通過しました。あの言葉がおかげで、今大会の結果が出たのだと思います。

これまでの道のりを思い返せば大変でした。毎日、夏は暑く冬は寒いなか練習時間は少ないとはいえども、それだけ貴重な練習は厳しかったです。学校の休みの日は普段の練習時間の少なさを補うため朝から晩まで練習し、時には中てなければならないプレッシャーや、先生の期待に応えられない自分が悔しくて心が折れそうになりながらも必死に練習していました。そんな厳しい練習を部員たちと乗り越える事ができたというのは自信になり、部員の団結にもつながったと思います。

これからは、六月のインターハイの男子選でも全国へのチーム作り、再び全国のスタートも他の高校の先生を日本一にするため精進します。

全国高等学校弓道選抜大会を終えて

松江北高等学校　女子弓道部
主将　井上蓮

私たち松江北高校弓道部は、大阪で行われた全国選抜大会に女子団体・女子個人（谷山理佳）が出場してきました。この大会は、平成二十三年度の第三十回大会において先輩方が初出場初優勝しておられ、私たちで二年連続の出場となりました。先輩方の実績は、私たちにも「優勝できる」という可能性を与えてくれていた同時に、「優勝しなければならない」というプレッシャーを感じさせていました。

勝つためには何が必要か。私は、全国大会という舞台において緊張や焦りや不安を打ち消し、堂々と弓を引く精神力が必要だと考えました。そのために、毎日試合をイメージし、自分にプレッシャーを与えながら練習をしていました。

結果は五位でした。優勝を目指していた私たちにとって、この結果に満足ができませんでした。チーム全員が戦力を尽くしましたが、私自身がいい的中を出せなかったことが悔しいです。何が足りなかったのか考えても、現時点ではっきりとした答えは見つけることが出来ていません。ただ、全国大会を経験できたことは、必ずこれからに生きてくると思うので、足りないものを見つけ、この悔しさをバネにして、夏のインターハイでは勝って帰ってきたいです。

また、私たちが全国大会という場で戦えたのは、部員が多いことで日々競争し切磋琢磨できたことと、質の高い練習のおかげであったと思っています。全国大会で入賞できなかった数多くの部員のサポートや、顧問の宇佐美先生、外部講師の大山先生のご指導、保護者や他の先生方、先輩方の支えや応援があってこそ得ることができたと思っています。全国大会に出場することで、私は多くの応援をいただいていることを実感し結果が報告できるように努力をしていきたいと考えています。

全国大会へ行って

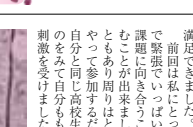
松江工業高等学校　登山部
津田健太郎

僕がクライミングを始めたのは、ほんの一年前です。母が情報誌で本庄にあるクライミングジムを見つけ、ジムへ行きました。僕は、運動神経があまりなく、楽しめるかとても不安でしたが、いざ登ってみるととても楽しかった事を覚えています。

高校に入り、山岳部に入りました。松江工業にはクライミングウォールがあり、まずは県予選を突破しなければならないと、本庄にあるクライミングジムと、工業のウォールで練習をしました。

県予選の日では、落ちていた日の前の課題を登り、決勝へ行く事ができました。決勝でも落ちていた登り、一位で全国大会へ行く事ができました。この時、全国で出る選手はどんな物なのか、他県のとても上手な方がいるんだろうなどの期待が生まれました。

前日に埼玉に入り全国大会へ臨みました。予選は二ルート登ります。僕はどちらも後半登るのが得意なので、他の人より登りが見られます。上手い人はどう登っていくのか、どうルートを攻略していくのかが見られました。自分が登るイメージは出来ましたが、強い人の登りは想像を越えたなと思いました。いざ自分が本番を登る時が来ました。どの地点までは行くという目標をもって夢中で登りました。本番は目標よりも七ルート行って来る事ができました。二時間くらい休憩してから次は二本目です。二本目は、全体の最後の方でみんなに注目されている先輩方の実績は、私たちにも届く事はありませんでした。全国大会へ行って他の高校の選手の技術を見て、これからもっと練習をしていかなければならないと成長しなければとも一度考えさせてくれました。とても大きな経験になりました。



がんばれ島根の高校生！～全国高等学校選手権・選抜大会に向けて（H26年3月開催）～

「春の高校バレーで感じたこと」

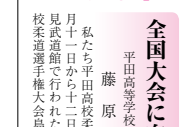
安来高等学校　男子バレーボール部
主将　成田大輝

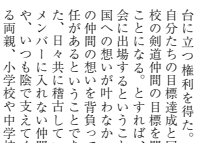
今年の高校バレーは私にとって二度目の大会となり、三年生にとっては最後の大会となりました。昨年の大会での悔しい敗戦を取られ、とても悔しい思いをした試合でした。その雪辱を晴らすべく、今大会に臨みました。

今年の一回戦の相手は福岡県代表の東福岡高校でした。東福岡高校は全日本ユースメンバーにも入っている優勝候補。平均身長も10㎝高く、そのうえ機敏な攻撃を仕掛けてくるチームで、非常にやりづらい相手でした。

しかし、私たちもこの日の為に日々の練習を大切に、向上心をもって取り組み、県外遠征を重ねてきたつもりです。島根県代表として堂々と戦おうと考えていました。

試合の内容は、立ち上がりはよかったものの中盤でミスが続き、流れを変えることができず、〇―二で負けてしまいました。東福岡の選手はどのチームよりも早くコートに出て試合前のアップをしていました。





『全国に』から『全国で』

横田高等学校　剣道部
主将　藤原悠大

円陣を組み「行こうじゃないか」の声掛けで私たち横田高校剣道部の稽古は開始される。もう一年この仲間と稽古ができないと思うと寂しい気持ちになるが、この一年間の成長を把握することができるという楽しみもある。

稽古のはじめは、自分たちの基本の確認をしていく。基本ができていなければ、自分たちの剣道は成り立たないからだ。

基本の稽古が終わると、次は地稽古。地稽古では、自分たちの剣道の課題を克服するために、相手の技を受けたり、自分の技を出したりする。

稽古の最後は、試合形式の稽古。試合形式の稽古では、自分たちの剣道ができているか、課題を克服できているかを確認する。

稽古の最後には、全員で掛かり稽古をする。掛かり稽古では、全員が一本ずつ打ち合う。掛かり稽古では、自分たちの剣道ができているか、課題を克服できているかを確認する。

稽古の最後には、全員で掛かり稽古をする。掛かり稽古では、全員が一本ずつ打ち合う。掛かり稽古では、自分たちの剣道ができているか、課題を克服できているかを確認する。

全国大会に向けて

平田高等学校　柔道部
藤原由果

私たち平田高校柔道部は、一月十一日から十二日にかけて石見武道館で行われた島根県高等学校柔道選手権大会島根県予選に出場し、男子団体優勝、個人戦でも三名が優勝し、私も個人で全国大会に出場できることになりました。毎日指導してくださる地域の方々、先輩方、そして家族の力があってこそ成し遂げられた結果だと思っています。

私は昨年の八月に福岡市で行われたインターハイに出場しました。初めての大舞台で緊張もありましたが、それ以上に楽しみな気持ちの方が大きかったです。一つでも多く勝つことを目標とし、自分を追い込んで稽古してきました。結果は初戦敗退の大会となりました。

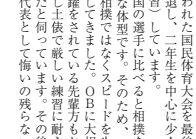
そして今回、再び全国の舞台に立つ機会を得ることができました。全国大会に向けて稽古に励み、さらに勉強にも力を入れ、「文武両道」を目指してきたつもりです。その努力が報われて本当に嬉しいです。前回以上に県代表として強い気持ちを持って臨みたいです。

必ず良い結果を残し、前回の悔しさを晴らしてこられるように、そして全国大会を目指す多くの学校に勝利し全国の大舞台に立つ権利を得たいです。それは自分たちの目標達成と同時に他校の剣道仲間の目標を閉ざすことにもなる。とすれば、全国大会へ出場するということは、全国への想いが叶わない他校の仲間の想いを背負って戦う責任があるということです。

また、日々共に稽古している団体メンバーに入れない仲間の想いや、いつも陰で支えてくれている両親、小学校や中学校でお世話になった先生方など、多くの方の想いを大舞台で表現する責任があることにも気づくことができました。

それからは、「全国に行く」から「全国の頂上に行く」という意識で稽古に励んできました。

我々は全国の選手に比べると相撲を行っている小柄な体型です。そのため、力・体重で行う相撲ではなくスピードを生かした相撲で相手を崩すことを目標としています。



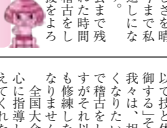
全国選抜大会に向けての抱負

隠岐水産高等学校　相撲部
主将　吉見雄大

全国高等学校相撲選抜大会に向けての抱負を述べます。

私たち相撲部は、三月十五日（土）から十六日（日）に高知県の春野総合運動公園相撲場で開催される全国高等学校相撲選抜大会に出場します。昨年十月に東京都大島で行われた国民体育大会を最後に三年生が引退し、二年生を中心に少人数で稽古をしてきました。

我々は全国の選手に比べると相撲を行っている小柄な体型です。そのため、力・体重で行う相撲ではなくスピードを生かした相撲で相手を崩すことを目標としています。

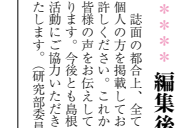


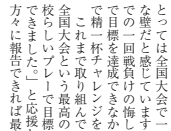
全国選抜大会に向けて

三刀屋高等学校　女子ソフトボール部
主将　持田侃

私たち三刀屋高校女子ソフトボール部は、現在十二人で活動しています。少人数であるがゆえに、顧問の先生方や卒業生の方々指導を受け、毎日のように練習に取り組んでいます。また、三刀屋高校の先生、保護者、地域のみなさんの温かい声援をいただき、全国選抜大会出場を勝ち抜くことができました。三重県熊野市で開催される全国選抜大会で応援してきた方々の期待に応えるようなプレーをしてきたいと思います。

私たちのチームの目標は「全国一勝」です。ここ数年全国大会に出場するチャンスを得ることができず同じ目標にチャレンジしています。目標を達成することはできていません。昨年の十一月に中国新人戦大会が終わり、冬季の練習に入りました。一つのプレーに一つの「心」の修練にという言葉を胸に練習に励んでいます。





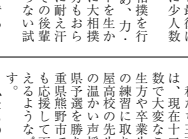
選抜大会に向けて

隠岐水産高等学校　相撲部
主将　吉見雄大

全国高等学校相撲選抜大会に向けての抱負を述べます。

私たち相撲部は、三月十五日（土）から十六日（日）に高知県の春野総合運動公園相撲場で開催される全国高等学校相撲選抜大会に出場します。昨年十月に東京都大島で行われた国民体育大会を最後に三年生が引退し、二年生を中心に少人数で稽古をしてきました。

我々は全国の選手に比べると相撲を行っている小柄な体型です。そのため、力・体重で行う相撲ではなくスピードを生かした相撲で相手を崩すことを目標としています。



全国大会に向けて

平田高等学校　柔道部
藤原由果

私たち平田高校柔道部は、一月十一日から十二日にかけて石見武道館で行われた島根県高等学校柔道選手権大会島根県予選に出場し、男子団体優勝、個人戦でも三名が優勝し、私も個人で全国大会に出場できることになりました。毎日指導してくださる地域の方々、先輩方、そして家族の力があってこそ成し遂げられた結果だと思っています。

私は昨年の八月に福岡市で行われたインターハイに出場しました。初めての大舞台で緊張もありましたが、それ以上に楽しみな気持ちの方が大きかったです。一つでも多く勝つことを目標とし、自分を追い込んで稽古してきました。結果は初戦敗退の大会となりました。

そして今回、再び全国の舞台に立つ機会を得ることができました。全国大会に向けて稽古に励み、さらに勉強にも力を入れ、「文武両道」を目指してきたつもりです。その努力が報われて本当に嬉しいです。前回以上に県代表として強い気持ちを持って臨みたいです。

必ず良い結果を残し、前回の悔しさを晴らしてこられるように、そして全国大会を目指す多くの学校に勝利し全国の大舞台に立つ権利を得たいです。それは自分たちの目標達成と同時に他校の剣道仲間の目標を閉ざすことにもなる。とすれば、全国大会へ出場するということは、全国への想いが叶わない他校の仲間の想いを背負って戦う責任があるということです。

また、日々共に稽古している団体メンバーに入れない仲間の想いや、いつも陰で支えてくれている両親、小学校や中学校でお世話になった先生方など、多くの方の想いを大舞台で表現する責任があることにも気づくことができました。

それからは、「全国に行く」から「全国の頂上に行く」という意識で稽古に励んできました。

我々は全国の選手に比べると相撲を行っている小柄な体型です。そのため、力・体重で行う相撲ではなくスピードを生かした相撲で相手を崩すことを目標としています。

全国選抜大会に向けて

隠岐水産高等学校　相撲部
主将　吉見雄大

全国高等学校相撲選抜大会に向けての抱負を述べます。

私たち相撲部は、三月十五日（土）から十六日（日）に高知県の春野総合運動公園相撲場で開催される全国高等学校相撲選抜大会に出場します。昨年十月に東京都大島で行われた国民体育大会を最後に三年生が引退し、二年生を中心に少人数で稽古をしてきました。

我々は全国の選手に比べると相撲を行っている小柄な体型です。そのため、力・体重で行う相撲ではなくスピードを生かした相撲で相手を崩すことを目標としています。

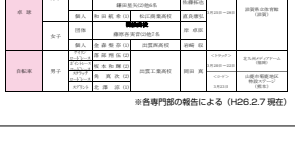
選抜大会に向けて

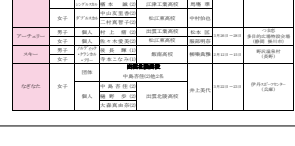
三刀屋高等学校　女子ソフトボール部
主将　持田侃

私たち三刀屋高校女子ソフトボール部は、現在十二人で活動しています。少人数であるがゆえに、顧問の先生方や卒業生の方々指導を受け、毎日のように練習に取り組んでいます。また、三刀屋高校の先生、保護者、地域のみなさんの温かい声援をいただき、全国選抜大会出場を勝ち抜くことができました。三重県熊野市で開催される全国選抜大会で応援してきた方々の期待に応えるようなプレーをしてきたいと思います。

私たちのチームの目標は「全国一勝」です。ここ数年全国大会に出場するチャンスを得ることができず同じ目標にチャレンジしています。目標を達成することはできていません。昨年の十一月に中国新人戦大会が終わり、冬季の練習に入りました。一つのプレーに一つの「心」の修練にという言葉を胸に練習に励んでいます。

平成25年度　全国高等学校選手権・選抜大会　出場者・大会日程





※各専門部の報告による（H26.2.7 現在）

お詫び

平成二十五年九月二十七日付けで発行いたしました高体連会報第三十号におきまして「二〇一三未来をつなぐ北九州総体」の水泳（飛込）女子高飛込において四位入賞に誤りがありました。松江南高校水泳部の須山莉子様には、大変ご迷惑をお掛けいたしましたことをお詫びして訂正いたしました。正しい写真を掲載いたしました。

＊＊＊＊編集後記＊＊＊＊

誌面の都合上、全ての種目のチームや個人の方を掲載しておりますことをお許しください。これからも多くの生徒の皆様の声をお伝えしていきたいと考えております。今後とも島根県高体連研究部の活動にご協力いただきますようお願いいたします。（研究部委員長　神門良博）